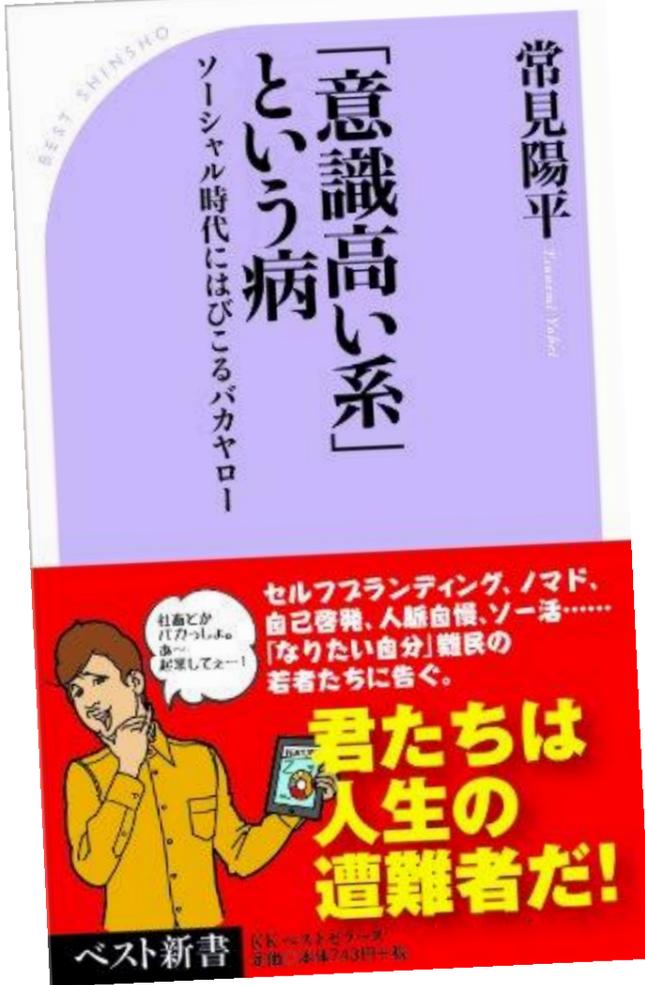


# あなたに薦める『この一冊』1月



国語教諭 伏見 裕紀  
高校 3年9組 担任

## 『「意識高い系」という病』 常見陽平[著] ベストセラーズ



人との「つながり」が一気に拡がり、そして薄くもなったといわれるソーシャルメディア時代。現在私たちの周りにはFacebook、Twitter、Instagram、LINEなど自分を発信し、簡単に人とつながれるツールが数多くある。そこに突如現れた「意識高い系(笑)」と呼ばれる人たち。自分のキャリアを真剣に考え、社会の出来事に関心を向ける……のではなく、「自己啓発本の読了報告」、「BBQを意識の高い仲間たちとやりました、出会いに感謝!」、「有名人とつながりました自慢」など。頑張っているというよりは、自分を大きく見せることに必死で、前のめりで、思わず(笑)を付けてしまいたくなるほど滑稽な空回りをする人たち。そんなバカヤロー達に、元意識高い系(笑)でもあった筆者が口悪く警鐘を鳴らす本。

ただ単に頑張っている人をこき下ろしているようにも見える内容でもあるが、「相互リア充監視システム」と化しがちなSNSに疲れた人にとっては何かしらの安堵感が残るかもしれない。面白おかしく自己顕示欲の強い人たちの特性を語る中、そこから見えてくる「本当に大事なものは何か? 何かを見失っていないか」というところに視点が向けば、どこに着地しようと価値があるように思える。前を見ることも大事、しかしどこに立っているかも分からずに、自分の実力以上の高評価に心震わせてはいけないう今日この頃。

### ☆著者『常見 陽平(つねみ ようへい)』豆知識☆

身長175センチ、体重80キロ。千葉商科大学国際教養学部専任講師/働き方評論家/いしかわUターン応援団長北海道札幌市出身。一橋大学商学部卒業、同大学大学院社会学研究科修士課程修了(社会学修士)。リクルート、バンダイ、ベンチャー企業、フリーランス活動を経て2015年4月より千葉商科大学国際教養学部専任講師。専攻は労働社会学。大学生の就職活動、労使関係、労働問題、キャリア論、若者論を中心に、執筆・講演など幅広く活動中。……

出典:常見陽平公式サイト「陽平ドットコム〜試みの水平線〜」より

### ★伏見 裕紀(フシミ ヒロキ)先生の紹介★

- \*担当科目・クラス  
現代文(高校3年文理進学コース文系)
- \*星座 → しし座
- \*趣味 → 筋トレ、キックボクシング
- \*自分の中学・高校生活  
勉強に部活に適度に頑張っ学生時代を過ごしました。仲の良い友達と高校時代はバンドを組みましたが、あまりにも楽器が出来なかったのでボーカルしかやらせてもらえませんでした。
- \*本校生の印象  
挨拶がしっかりできる生徒がいるなあという印象。
- \*感動した本  
『樺通りの人々』内海隆一郎[著] 講談社
- \*読むことが望ましい本  
『からくりサーカス』藤田和日郎[著] 小学館



### “わたし”を肯定する / “つながり”を考える 気負いすぎず生きるための考え方・SNS関連書籍

- ・ しないことリスト pha[著] 大和書房

仕事と家庭を両立して、家も買って、運動もして、流行も追って……それができる人はそうしたらいい。でも、そういうのが「うまくできる人間」ばかりじゃない。京大卒・元「日本一のニート」が説く、世界一人生をラクに生きるための36のヒント。



- ・ 他人に振り回されない心理学 オズとも子[著] 大和出版

他人に振り回されない自分になる方法を、「メタファー(たとえ話)」「メタファーを受けての紙上カウンセリング」「心理学的側面から見たアドバイス」の3ステップで解説。



- ・ この世界で1人くらいは、私の生きる価値を認めてくれるはずだから ポイズンちゃん[著] KADOKAWA

絶世のブスだし、何の取り柄もないけど、そんな自分に固執してしまう。「人と比べたらキリが無い」とか、「誰もアンタのことなんか見てない」とか言われるけど、そうやって自分の辛さを否定しなくても良い。

恋や生き方にまつわる女子の苦悩を、毒気を含みながらもさらけ出す、共感度大の1冊。



- ・ 友だち幻想 菅野仁[著] 筑摩書房

友だちは何よりも大切。でも、なぜこんなに友だちとの関係で傷つき、悩むのだろう。人と人の距離感覚をみがいて、上手に“つながり”を築けるようになるための本。



- ・ 脱ネット・スマホ中毒 遠藤美季[著] 誠文堂新光社

スマートフォンの普及によりインターネットの利便性は向上しました。しかし、ガチャに数十万を注ぎ込んだり、SNSで他人の動向をチェックしてしまうなど病的なスマホ・ネットの使い方も目立ってきています。どうすれば依存を防ぎ、様々なトラブルから身を守ることがで



→その他、多数所蔵しています

編集後記: 空前の高度情報化社会。進化する情報端末、インターネット、ソーシャルメディア……その中で私たちは、それらを本当の意味で“便利”に使えているのでしょうか? 「もちろん!」と答えられる人は、あまり多くないかもしれません。「世界と“つながる”とき、“わたし”にとって大事なもの、大切にすべきことは何だろうか?」と、それぞれがしっかりと考え、自分なりの答えを出してもらえたらと思います。